

これからの平和について考える



政策秘書課秘書広報係 TEL 25-1114

昭和61年6月20日、鳥羽市は「非核平和都市」であることを宣言しました。40年経った今、改めて平和について考えるため、鳥羽遺族会会長の坂倉紀男さんにインタビューを行い、私たちがこれからの未来につなぐべき想いについて伺いました。

語り継ぐ、あの日の記憶

終戦から80年以上が経ち、戦争を直接知る世代は少なくなっています。戦争の悲しみは、教科書の中だけの出来事になりつつあるのかも知れません。だからこそ、記憶を風化させず次世代へ「語り継ぐこと」が重要です。戦没者遺族である坂倉会長は、自身の経験から語ります。

「私の父親はフィリピンで戦没し、当時私は2歳でした。戦争の記憶はありませんが、周囲から当時の状況を何度も聞かされることで、戦争を自分事として捉えるようになっていました。たとえ周りに話せる人がなくなっても、対話を絶やさず、歴史を伝えていくことが大切だと思います。」

日常生活の平和

鳥羽市の宣言には、核兵器廃絶や世界の恒久平和への願いが込められています。被爆国である日本だからこそ、『持たず・つくらず・持ち込まず』の非核三原則は絶対に守り抜かねばなりません。

また、平和はだれもが考えるべき問題です。私たちの身近にこそ、大切なヒントがあります。

「私たち自身にできることは『話し合い』を怠らないことです。力づくで解決しようとせず、身近なところからお互いを尊重し、対話を重ねることこそが、平和の確かな土台になります。」

次世代へのメッセージ

これからの鳥羽を担う若い世代に向けて、会長からメッセージをいただきました。

「一言で言えば、『戦争は絶対にしてはいけない』これに尽きます。若いみなさんには、互いを理解し、助け合う『思いやりの心』を持つて生きてほしいと思います。自分勝手な主張ばかりでは争いは終わりません。悲慘な戦争を二度と起こさないためにも、話し合いの通じる豊かな社会を築いていくください。」

40年という節目に、これからの平和を自らの手でどう創るかを考えてみる機会になればと思います。

私たちにできる

未来への一歩

「特別な行動は必要ありません。家族や友人と平和について少し話してみる、鳥羽の豊かな自然や大切な人と過ごせる日常に感謝してみる。一人ひとりの小さな関心が集まることで、戦争のない世界を守る大きな力へと変わっていきます。」

鳥羽から次の世代へ、平和への誓いを新しく紡ぎ始めましょう。

原爆と人間展

戦争の悲惨さや、平和の尊さを考えるため、市立図書館では「原爆と人間展」を開催しています。ヒロシマの原爆写真パネルなどの展示と戦争や平和についての本を集めてありますので、ぜひお越しください。

市立図書館 TEL 26-4555



展示期間 8月31日(月) まで